

# 第13回 韓・日国立図書館業務交流 子ども図書館交流

## 国立子ども青少年図書館の過去1年間の進歩

チョ・ジェハク／国立子ども青少年図書館情報サービス課

### 1. はじめに

国立子ども青少年図書館は、「子どもと青少年の未来をひらく図書館」をビジョンとし、「子ども青少年図書館サービス発展基盤の造成、読書振興プログラム開発および普及、子ども担当司書の専門性強化、国内外交流協力活性化、子ども資料研究図書館、子ども図書館運営およびサービスモデルの提供」のための事業を行っている。本稿では、2010年に施行された事業全般について紹介したい。

### 2. 2010年度主要業務

#### (1) 子ども青少年図書館サービス発展基盤の造成

- 1) 国立子ども青少年図書館運営評価および発展方策の研究(2010年7～11月)  
-2006年開館以後、2009年までに行った読書振興事業への評価と、今後の発展方策に対する研究
- 2) 子ども青少年読書文化振興先進化方策研究(2010年7～11月)  
-子ども青少年の読書生活化定着のための国家次元の求心体ロールモデルの提示

#### (2) 読書文化プログラム開発および普及拡大

- 1) 体験型童話口演プログラムの開発およびサービス拡大
  - ①2009年12月に始まったサービスで、国内図書館の中で初めて実施したプログラム
  - ②大型スクリーンを通じて、仮想空間で繰り広げられる多様な童話の中の背景に子どもたちが投影されて、背景を直接触っているような実在感を与えると同時に、背景に合わせて楽しく体験することができるようにして読書への興味を高める
  - ③2010年8月までに、計450回、2,675人の子どもが参加し、現在2個のコンテン

ツが運営されている

④サービスを安定的に運営し、公共図書館に拡大・普及するシステムを用意

2) 疎外階層<sup>1</sup>と多文化家庭<sup>2</sup>のためのプログラム開発およびサービス拡大

①公共図書館-児童センターと連携し、出張する「図書館と一緒に本を読もう」事業

-2009年 50館→ 2010年 75館

-運営する公共図書館の担当司書への事業説明会、中間報告会開催

-圏域別の読書キャンプ(6圏域)

②多文化家庭のための読書コンテンツ開発及び普及

-伝来/創作童話など優秀絵本120冊程を動画コンテンツで開発し普及

-多文化家庭の子どもが、両親の出身国の童話の中から30冊程度を選定し、コンテンツ開発を拡大、字幕言語(5か国語)の拡大製作、図書館および多文化センターに普及(1,000部)<sup>3</sup>

③農漁村、図書館未発達地域に「図書館本のセット巡回」運営

-子ども資料10テーマについて、本のセット(50冊程度)を2か月単位で巡回し貸し出し<sup>4</sup>

-国内外の児童書のテーマ別読書プログラム活動資料の提供、作家との出会いなどの文化行事を支援

3) 青少年読書プログラム「1318本の虫たちの図書館占領記」運営

4) 青少年のための読書コラム提供

5) 第4回全国子ども・青少年読書感想文・読書新聞公募展開催

6) 全国公共図書館読書教室運営支援

2009年 725館 26,000人参加→ 2010年 818館 31,824人参加

7) 全国読書教室優秀指導者推薦および表彰授与

(3) 子ども担当司書専門性強化のための教育拡大

1) 子ども担当司書専門教育の運営

-集合教育:「子ども担当司書基礎」等4課程(155人修了)

2009年 6課程 261人修了/ 2007年~2010年で計9課程 1,119人修了

-サイバー教育:「児童書書評」等3課程(1,112人修了)

2009年 2課程 355人修了/ 2007年~2010年で計4課程 1,802人修了

2) サイバー教育コースウェア(コンテンツ)開発

<sup>1</sup> 訳注:英語では“a neglected class of people”と訳される。情報や経済的な社会的弱者の層を指す。

<sup>2</sup> 訳注:多文化家庭とは、近年増加している「国際結婚により構成される家庭」のこと。韓国男性と東南アジア等の発展途上国出身の女性による国際結婚が大半を占めており、一般の韓国人家庭に比して教育への関心や子どものリテラシーの低さが問題視されている。

<sup>3</sup> '09年 28冊(ベトナム語、英語)→'10年 150冊程度(中国語、タイ語、モンゴル語を追加)

<sup>4</sup> '09年 52セット(2,600冊)→'10年 136セット(6,800冊)

- 3) 子ども担当司書実務中心教育プログラム運営  
-2009年3回開催84人参加→2010年4回開催160人参加
- 4) 東南アジア諸国連合(ASEAN)子ども担当司書研修実施・新規事業

(4)子ども資料研究図書館としての役割遂行

- 1) 国内発行子ども資料を納本により大部分を収集
- 2) 国内オンラインデジタル子ども資料の選別収集
- 3) 英米地域、アジア、ヨーロッパなど全世界で発行された海外優秀児童図書収集
- 4) 多文化圏地域資料の拡大収集(フィリピン語、インドネシア語など14言語)
- 5) 子ども青少年専門情報提供のための利用者開発
- 6) 子ども青少年関連専門家の研究活動支援およびウェブマガジン(Webzine)発刊

(5)子ども図書館モデルとしての役割の遂行

- 1) 子ども青少年のための資料室運営および専門サービス強化
- 2) 児童書推薦  
-図書館ホームページに「司書推薦図書」運営：児童書の情報を提供
- 3) 子ども、青少年、保護者に対する読書文化(正規/特別)プログラムを運営<sup>5</sup>

#### 4. 結び

国立子ども青少年図書館は、子ども青少年図書館の発展の先頭に立ち、子どもおよび子ども青少年研究の基盤を作る一方、子ども図書館としてのロールモデル機能を遂行するために努力する所存である。このため、子ども担当司書の専門性強化のための教育を充実させ、国内外の子ども図書館と持続的な協力を拡大し、先進的な技法を導入して図書館の力を強化していきたい。

---

<sup>5</sup> 大部分、子どものためのプログラムであり、子ども（「童話口演」等27プログラム）、青少年（「読書サークル」等7プログラム）、保護者（「読書講座」等1プログラム）を対象に運営。

## ホームページ活性化を通じた積極的な子どもサービス

チョ・ジェハク／国立子ども青少年図書館情報サービス課

### 1. はじめに

国立子ども青少年図書館のホームページを通じたオンライン情報サービスは、2006年6月の開館と同時に始まった。図書館ホームページ(<http://www.nlcy.go.kr>)は、「図書館利用、資料探し、本の紹介、いっしょにたのしむプログラム、参加の広場、図書館刊行資料、図書館紹介」の7つのメインメニューと50程度の関連メニュー、そして14のショートカットメニューなどで構成される。

国立子ども青少年図書館ホームページは子ども、青少年、父兄、子ども青少年関連の研究者、そして子どもサービス担当者など、誰でもアクセスして情報サービスを受けることができる。ホームページを通じた情報サービスは、子どもたちに直接情報を伝達する直接情報サービスと、子どもサービス担当者に提供される間接的な子ども情報サービスに分類できる。直接的な子ども情報サービスには、資料検索、司書推薦図書(本の紹介)<sup>6</sup>、文学賞を受賞した本(本の紹介)、プログラム紹介(いっしょにたのしむプログラム)、読書感想文掲示板(参加の広場)、子ども絵本電子ギャラリー、子ども電子図書館、多文化童話口演、読書クイズなどが含まれる。間接的な情報サービスには、子ども担当司書のためのウェブコミュニティとオンライン継続教育、ウェブマガジンサービスなどが含まれる。本稿では、代表的な直接サービスとして利用者からの反響が大きい「子ども電子図書館、多文化童話口演、子ども絵本電子ギャラリー、司書推薦図書(本の紹介)」について、また、間接サービスのうち「全国子どもサービス協議会、読書振興、子ども担当司書継続教育、ウェブマガジン子ども青少年研究e-partner」について、紹介する。

### 2. ホームページ内子ども対象直接サービス

#### (1) 子ども電子図書館

子ども電子図書館は、国立子ども青少年図書館オンライン会員に加入した後に利用することができ、無料で提供されるサービスである。ホームページ(<http://www.nlcy.go.kr>)

---

<sup>6</sup> () 内はメインメニューの項目名

にログインした後、画面右側のショートカットメニューを通じて入ることができる。オンライン電子資料は全部で829編あり、コンテンツは、国内外の昔話、名作、創作童話を収録した「童話の国へ(821編)」、外国語を習うのに役に立つ「他の国のことばを学ぶ(5編)」、歴史や数字などをおもしろく学習できる「学ぶ遊び場(3編)」で構成される。

所蔵資料のうち絵童話100編を除いては、図書館内のオンラインPCだけでなく図書館外のオンラインPCでも利用することができる。



<ホームページ内メニュー位置>



<電子図書館ホームページ>

## (2)多文化童話口演

多文化童話口演は、子どもたちが童話を通じて多様な文化に接することができるようにするためのサービスであり、ホームページ内で別途ログインすることなくアクセスできる。このコンテンツは「英語童話の本」と「韓国昔話」で構成される。それぞれの詳しい内容は次のとおりである。

### ①英語童話の本の童話口演

子どもと青少年の外国文化理解と英語活用能力向上に資するために企画された。童話口演専門家が英米圏の古典童話を英語で口演する様子と共に、韓国語字幕を見ることができる。全部で151編の英語童話の本を見ることができ、韓国語と英語の台本をダウンロードして活用することができる。

「英語童話の本童話口演」のすべてのコンテンツは、国立子ども青少年図書館ホームページ([http://lscv.nlcy.go.kr/mov/index\\_bak.jsp](http://lscv.nlcy.go.kr/mov/index_bak.jsp))を通じて図書館内、図書館外のどこからでも、オンラインPCで接続してサービスを利用できる。

### ②韓国昔話童話口演

2009 年に米国のミルウォーキー大学と協力して、多文化家庭の子どものための韓国昔話童話口演コンテンツ 28 編を、英語、ベトナム語など翻訳 DVD で製作し、全国の公共図書館および多文化地域センターなどに配布した。このコンテンツは、多文化家庭の子どもの目の高さに合わせて、両親とともに楽しめるように童話口演は動画およびアニメーションで製作した。多文化家庭の子どもおよび外国出身の母親の韓国文化に対する理解とハングル活用能力向上を支援し、読書に対するモチベーションを高めるために企画された。

2010 年には、韓国昔話を含め、中国、フィリピン、ベトナム、タイ、モンゴルなど 6 ヶ国のすぐれた絵本 150 編を選定して、出版社と著作者に著作権の同意を受けた後、翻訳 DVD を製作および配布する予定である。配布した「英語童話の本」と「韓国昔話」等のコンテンツは、全国公共図書館(738 館)および多文化地域センター(158 か所)で多文化家庭のための文化プログラム、ハングル教室、読書教室など子ども読書プログラムのために活発に活用されている。出版社のインターネットサービスまで著作権同意を受けたコンテンツは、国立子ども青少年図書館ホームページ([http://lsc.nlcy.go.kr/mov/index\\_bak.jsp](http://lsc.nlcy.go.kr/mov/index_bak.jsp))を通じて図書館内外のどこからでも、オンライン PC で接続してサービスを利用できる。

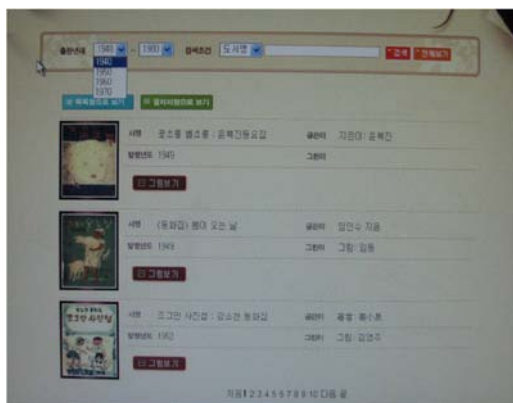


<多文化童話口演ホームページ>

### (3) 電子ギャラリー

韓国で刊行された子ども絵本の表紙、挿絵などの絵資料をデータベースで構築し、ウェブページで紹介して、国立子ども青少年図書館で開催した主要な展示会をサイバー上で鑑賞することができるように映像で再現して提供するサービスである。電子ギャラリーに収録された資料の原文を連携して提供しており、1940 年代から 1980 年代までに

刊行された国内創作子ども絵本について、時代別資料を対象に構築した。このサービスは、子ども専門研究の土台を築き、図書館およびホームページの利用を活性化するためのもので、2008年から年度別、段階別に推進した。対象資料は作品性と時代代表性、学術的優秀性などを考慮して、優秀資料選定のための諮問委員会を開催して選定した。ホームページ内の主要メニューは「紹介」「子ども絵本」「サイバー展示室」「FAQ」で構成される。「子ども絵本」メニューでは、「出版年代、図書名、著者名、出版社、著者名(絵)」を検索条件に資料を検索できる。「サイバー展示室」メニューでは、国立子ども青少年図書館で開催した、あるいは開催中の展示を見ることができ、また、バーチャルリアリティ(VR: Virtual Reality)システムを活用して、展示映像と共に関連資料を見ることができるようにした。電子ギャラリーには著作権保護プログラムを設置しており、図書館内はもちろん外部でも見ることができる。



< ‘子ども絵本’画面>



< ‘サイバー展示室’ VR画面>

#### (4) いっしょにたのしむプログラム

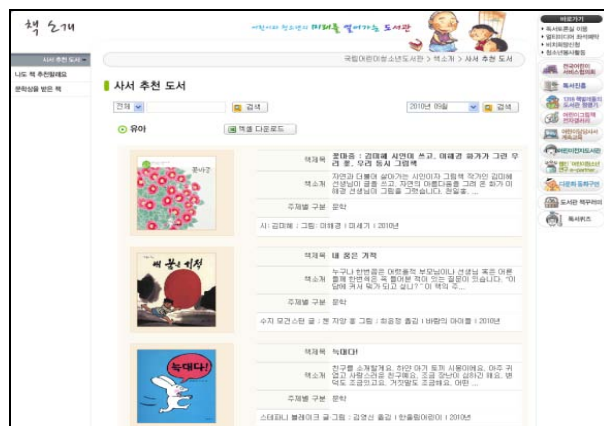
このサービスは、子ども、青少年、成人利用者が直接参加する多様なプログラムで構成される。毎年、学校の長期休暇ごとに1週間ずつ運営される「本の中で夏/冬を過ごす」プログラムを含め、童話口演、ストーリータイム、読書サークルなど国立子ども青少年図書館で直接運営するすべてのプログラムが含まれる。すべてのプログラムは会員登録後オンラインまたは来館して申請することができ、図書館に直接訪問して参加できる。2010年1月から8月まで、童話口演など33のプログラムが1,006回(1日平均2.4回)運営され、13,320人の利用者が参加した。子ども、青少年の情報ニーズを充足して、図書館が文化空間として認識されるようにするための多様なプログラムを用意し、国内の公共図書館と子ども図書館がベンチマーキングできるように(訳注:これを基準として自己評価し改善を図れるように)した。



<いっしょにたのしむプログラム画面>

(5) 司書推薦図書(本の紹介)

司書推薦図書は、資料室で入手した新着図書から各資料室担当司書が推薦資料を選定、対象を乳児、小学校低学年、小学校高学年、青少年資料に分類して 400 字以内の紹介文を作成し、ホームページに掲載するサービスである。2007 年 1 月からホームページに掲載し、毎月 20 点余りが新しく紹介される。掲示された司書推薦図書は、「書名、著者名、内容」等キーワードで検索することができ、全体図書目録はエクセルファイルでダウンロードして活用できるようにした。



<司書推薦図書画面>

3. ホームページ内子ども対象間接サービス

1) 全国子どもサービス協議会



全国子どもサービス協議会は、全国の子どもサービス担当者を中心に運営されるウェブコミュニティ空間である。このサービスは、全国子どもサービス協議会会員間の研究活動、情報共有、協力を支援することを目的とする。ホームページに協議会の活動と行事を広報し、子どもサービス関連の最新ニュースを収集掲示して、会員にメーリングサービスで提供する。このサービスは、会員間の双方向コミュニケーションを可能にするだけでなく、会員の自己学習空間で活用されている。

このホームページは各種データベースおよび掲示された文の統合検索を支援して、関連サイトへのアクセスと、人気があるタグの文書に速かにアクセスできるタギングサービスを提供する。また、会員たちが直接企画して運営するウィキサービスを提供するだけでなく、教育、セミナーなどを申請する窓口の役割も果たしている。

## 2) 読書振興

このサービスは、子どもと青少年の読書振興を活性化できる読書振興事業および読書プログラム開発、普及などのための活動である。この活動には「図書館といっしょに本を読む」「全国読書教室」「本を読むあそび場」「青少年読書文化プログラム」「青少年のための読書コラム」のようなプログラムが含まれる。このうち「図書館といっしょに本を読む」ホームページは、情報・文化疎外階層に属する子どものための読書振興事業に関する運営報告書を提供しており、全国子どもサービス協議会ホームページとリンクしている。このホームページ内の「行事とイベント」メニューを通じては、国立子ども青少年図書館の読書振興事業を広報して参加することができるようにした。資料室メニューでは、国立子ども青少年図書館が刊行した読書振興を主題とするパンフレットと映像資料そして事業別運営報告書などを見ることができるようにし、国内外の読書振興サイトとリンクして、広範囲な情報サービスを支援するようにした。

## 3) 子ども担当司書継続教育

このサービスは、子どもサービスに携わる人材の専門性を強化して、創意的で能動的な子ども担当司書になることを支援するためのものである。また、教育に参加した担当者間の交流を通じて人的ネットワークを形成することができるようにした。ホームページには、集合教育とサイバー教育、そして巡回教育課程について、すべての教材の原文をのせて受講生が活用することができるようにした。国立子ども青少年図書館では、子ども担当者の情報サービス開発のための体系的で持続的な教育と、需要者中心の「巡回課程」教育が運営されており、自己主導的な学習を支援するためにサイバー課程も開設した。特にホームページを通じてサイバー教育課程の3講座が4回にかけて運営され、担当司書から大きな反響を受けている。

## 4) ウェブマガジン<子ども青少年研究 e-partner>サービス

このウェブマガジンは、2007年11月1日に創刊した月刊の電子ニュースレターである。このサービスは、子どもと青少年関連の研究者および関連サービス担当者の研究活動支援を目的として提供される。収録内容は、テーマ&所蔵資料、本・論文の紹介、逐次刊行資料の目次情報、研究界の便り、情報ガイドなどのメニューで構成される。このサービスは、ホームページ(<http://www.nlcy.go.kr/section/web/web.asp>)に掲載する一方、子ども青少年研究者およびサービス担当者、関連分野に関心を持つ利用者など15,000人程度にメールサービスで提供している。

#### 4. 結び

ここまで、国立子ども青少年図書館が子どもを対象に提供するオンラインサービスのうち、代表的なサービスを紹介した。国立子ども青少年図書館は時間がなかったり距離が遠くて直接来館できない利用者のために、多様なサービスをホームページを通じて提供しており、順次オンラインサービスを拡大している。国立子ども青少年図書館のこのような努力は、2009年のホームページ訪問者数と比較して2010年の同じ期間に訪問者数が2倍以上増加したのを見ると、利用者の高い参加と反響を引き出したものと思われる<sup>7</sup>。

今後も国立子ども青少年図書館は、有用なコンテンツを構築する一方、情報化時代の流れに合わせて最新技術により持続的にシステムを改善補完し、子どものみならず青少年と父兄、子ども担当司書そして児童文学研究者に対して多様かつ高水準の情報を提供するべく努力していく所存である。

---

<sup>7</sup> 2009年(1~8月) ホームページ訪問者: 738,845人、2010年(1~8月) ホームページ訪問者: 1,714,229人